



三五の森づくり 植樹レポート



Vol.05

2021年1月号



第一回STEMの植樹祭開催

4,286本

STEMとなって初めての植樹祭が9月19日に開催されました。タイとしては計9回目の植樹となります。STEMはマングローブの植樹も行っていて、これを含めると、実に5万5千本以上の木を植えてきたこととなります。植えてから数年経った工場周囲は立派な森になっています。森の中には神様の木とあがめられている木もあります。

植樹当日はアノン・チャナモーン博士に指導を受け、宮脇方式の植樹方法を改めて学びました。

新型コロナウイルス感染対策のため、ブロックを一つおきに植樹するなど工夫していただきました。



~ビオトープにいのちを吹きこむ活動も~

同日、完成していたビオトープにいのちを吹き込む、魚の放流式を行いました。



KPIの鳥が来た！



この鳥はアジアンゴールデンウェーバーバードと言います。コメを主食として水辺の植物に営巣します。

ビオトープの指標種としてKPIに設定したこの鳥が、ビオトープ完成後数週間でやってくるようになりました。植栽したコメを食べているようです。

今回の事務局紹介

三五の自然共生を
しっかり継承します

STEM 酒井健司さん

酒井さんはタイ勤務2年目です。7月から森やビオトープのご担当となり、戸惑うこともあったと思いますが、9月の植樹祭の事務局をバッチリやり切りました。とても真面目な3児の父です。





三五の森づくり

コロナ禍での植樹、どうする？



新型コロナウイルスの影響で、植樹祭という活動自体の在り方が変わっています。今年三五では「植樹祭ガイドライン」を発行し、それに沿って本社、八和田山、三好、とよはし工場で植樹祭を実施しました。その方法をご紹介します。



《密回避》

すでに出来上がったECO35の森の中への低木植栽。まばらにランダムに植えたので密を避けることができた。



《マスクとフェイスシールドの着用》

開会式はソーシャルディスタンスを保ちながら集まった八和田山工場。司会や挨拶をする方は、マスク装着の上、フェイスシールドをつけて開催。



《アレルギーの方は不参加》

植栽後の稲わら敷きはアレルギーを持っていない有志により行った三好工場。少人数で行うので時間はかかるが、アレルギーによる発熱などがあるとコロナ感染と間違えないための対策。

※コロナ対策の詳細は植樹祭ガイドラインをご参照ください。

GSCは公園にも植樹

2,020本



GSCは広州市南沙区大岡鎮十八羅漢山森公園に植樹を行いました。2020年だけに2020本を51人で植えたとのこと。政府の方の参加もあり、GSCの社会貢献に対して称賛のお言葉をいただいたようです。GSCの行動力にはいつも頭が下がります。宮脇方式による森が広がっていく一歩ですね。



現在の植樹本数：299,284本 目指せ35万本！